

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所独自の理念は管理者と職員が話し合い作成されている。</li> <li>・理念は地域密着型とサービスの役割を反映させたものとなっている。</li> </ul>	
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月一回の勉強会やミーティング時、理念を確認しながら実践に向けて日々取り組んでいる。</li> </ul>	○  ・全職員が理念を理解し、日々のサービス提供場面に反映できるよう努める。
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所内に掲示すると共にリーフレットに明示している。</li> <li>・事業所利用時には家族等に説明している。</li> </ul>	○  ・利用者や家族が見やすくわかりやすいように理念を掲示する。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・隣近所の人にあつた時には努めて挨拶している。</li> <li>・ボランティア等の受け入れや行事等の参加を呼びかけている。</li> <li>・町内会のゴミ拾い活動に参加している。</li> <li>・市内の中学校の職場体験学習を受け入れ、認知症について学んでもらっている。</li> <li>・町内会の賛助会員になっている。</li> <li>・日頃から近隣の人たちに気軽に立ち寄ってもらえるように働きかけしている。</li> <li>・外部の人を受け入れる際には、利用者のプライバシーに十分配慮している。</li> </ul>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部の強化の結果を下に改善策の検討や改善計画を策定するなど、より良いサービスの影響につなげるための取組を行っている。</li> <li>・職員各自が自己評価した後、協議し、ユニットの自己評価としている。</li> </ul>	
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施している。</li> </ul>	
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市の自己評価、外部評価の結果を報告している。</li> </ul>	
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部研修に参加している。</li> </ul>	○  ・全職員が権利擁護事業や成年後見制度について理解を深め、利用者や家族等を支援できるよう努める。
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・虐待が見過ごされないよう、注意を払い、防止に努めている。</li> <li>・マニュアルを作成している。</li> </ul>	○  ・外部研修への内部研修の実施等を通じて、全職員が高齢者虐待防止法に関する理解を深める取組を行っていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
10	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・契約時には十分な説明を行い同意を得ている。</li> <li>・退居の際は、契約に基づき、利用者や家族等に十分説明を行い、同意を得ている。</li> <li>・退居時には退居先の情報提供を行う等の支援を行っている。</li> </ul>	
11	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施している。</li> </ul>	
12	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月に1回、家族へ暮らしぶり、受診状況、金銭管理状況を報告し、必要があれば、その都度連絡を取っている。</li> <li>・玄関には担当職員を写真付で掲示している。</li> </ul>	
13	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族等が意見や要望などを話しやすい雰囲気作りに心がけている。</li> <li>・家族より非常口のスロープに手すりが無くて危険だという指摘を受け、手すりを設置した。</li> </ul>	○  ・苦情受付窓口を継続的に家族等に周知する。
14	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回職員会議実施し職員の意見を聞く場を設けている。</li> <li>・利用者の受け入れ等の決定事項について職員の意見を聞いている。</li> </ul>	
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・柔軟な対応が出来るよう、話し合いや調整に努めている。</li> </ul>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・利用者への影響を配慮した異動、配置換えを行っている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
17	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・月1回の勉強会、外部研修への積極的な参加。 ・研修受講後は報告書を作成している。 ・研修受講の際はケアに支障がないよう勤務体制に配慮している。		
18	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・交流しているグループホーム間で相互評価を実施している。また、困難事例検討会も実施している。		
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	・日常的に運営者や管理者が職員の悩みやストレスを聞いている。 ・休憩時間や休憩場所を確保している。	○	・個人面談の実施を検討する。
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	・運営者は現場の状況他、職員の日々の努力や夜勤の状況を把握している。 ・健康診断の実施等健康を保つための体制を整えている。 ・就業規則があり、守られている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・サービス利用の相談があったときには、利用希望者や家族と面談する等、直接話しを聞く機会を設けている。 ・相談を受ける際は本人、家族との信頼関係を築くよう意識し、対応している。	
22	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・対応できることについては柔軟に実行している。 相談時の本人、家族のニーズに対し何が必要か見極めている。	
23	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・利用者、家族等双方の意向に沿ったサービス開始となるよう話し合いを行い、調整している。	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・利用者と職員が共に過ごしながら喜怒哀楽を共有し、理解するように努めている、 ・利用者に担当をつけることにより、理解を深め、支えあう関係を築いている。	○  ・職員は介護する側になりがちなので、同じ目線で、支えあう関係を築いていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・面会時には近況報告をすると共にコミュニケーションを図り、一緒に本人を支えていく関係をつくるよう務めている。</li> <li>・月1回受診状況等の報告。</li> <li>・ケアプラン更新時に話し合いの機会を設けている。</li> </ul>		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員は利用者と家族のこれまでの関係や双方の思いを把握している。</li> <li>・利用者の様子を面会時や電話等で伝えたり、家族がホームへ来やすいように努めている。</li> <li>・誕生会、夏祭り等の行事に家族等の参加を促し一緒に本人を支えていく関係を築くよう努めている。</li> </ul>		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者がこれまで関わってきた人や馴染みの場所等を把握している。</li> <li>・馴染みだったお店や場所に出かけられるよう支援している。</li> </ul>		
28	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仲の良し悪しや利用者の人間関係等を把握し、利用者が孤立しないよう配慮している。</li> <li>・食席、休憩場所を考慮しながら対応している。</li> </ul>		
29	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サービス終了後も相談や支援に応じる姿勢を利用者や家族等に示している。</li> </ul>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・利用者の思いや希望を把握するように努めている。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・利用者の生活歴について家族から情報収集を行っている。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・利用者の一日の過ごし方や生活リズム等を把握するように努めている。 ・利用者のできることに、わかる力を把握している。	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・担当者及び家族の要望を取り入れケアプランを作成している。 ・介護計画は利用者本位の個別具体的なものとなっている。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・介護計画の実施機関を明示し、期間終了後は見直しを行っている。 ・利用者の状態に変化がないか常に観察や把握するよう努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・一人一人について具体的に記録すると共に職員間で情報交換している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
36	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・医療連携体制や移送、外出支援等を組み合わせながら利用者と家族とのくらしの継続性を支援するための柔軟な対応を行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
37	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・実施している。		
38	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・実施していない。		
39	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加しているが協働するには至っていない。		



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者や家族が希望する医療機関を受診できるよう支援している。</li> <li>・これまでの受療状況を把握している。</li> <li>・定期受診のほか体調変化があるときは適切な医療を受けられるよう支援している。</li> </ul>		
41 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協力医療機関に精神科外来がある。</li> </ul>		
42 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護職員を4名配置している。24時間いつでも気軽に相談できる。</li> <li>・利用者の普段の状況や持病等を十分理解している看護師を配置している。</li> </ul>		
43 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・退院にむけた支援体制について家族も含めた話し合いを行う体制が整えられている。</li> <li>・医療機関との情報交換や相談できる体制が整っている。</li> </ul>		
44 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重度化対応、看取りの指針を作成している。</li> </ul>		
45 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所として対応が可能なこと、困難なこと、不安なこと等について職員間で話し合いを行う体制が整えられている。</li> </ul>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	・全職員は利用者が別の場所に移り住むことによるダメージを理解しており、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>				
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>				
47	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・利用者のプライバシーに配慮し、業務を行っている。 ・個人情報を利用者や訪問者の目につくところに置いていない。 ・介助時や声がけは本人の羞恥心に配慮している(いない)。	○	・利用者の言動を否定しないよう、努めていきたい。 ・年長者と接する上での常識的かつ適切な呼びかけや声がけを行っていきたい。
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	・利用者の力量に応じて自己決定を促す場면을積極的に作っている。 ・意思疎通できない場合は、表情・態度により把握するよう努めている。 ・利用者との日々の関わりや家族等からの情報により、利用者の希望や関心、嗜好等を把握している。		
49	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・利用者の言動をせかすことがある。 ・業務を優先して利用者の訴えを後回しにすることがある。		・利用者の言動をせかさないう努める。 ・業務を優先して利用者のペースやその日の希望、身体・精神状況に合わせた柔軟な支援を行っていくよう努める。
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
50	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・利用者の個性や希望を尊重している。 ・季節感のある服装ができるよう支援している。 ・衣類は整容の乱れにはさりげなくサポートしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の状況や意思等に応じて調理の準備や後片付けを職員と一緒にやっている。</li> <li>・利用者の苦手なものに配慮している。</li> <li>・職員も一緒に席で食事を摂っている。</li> </ul>		
52 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施している。</li> </ul>		
53 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・排泄パターンを記録、把握し、トイレ誘導、おむつ交換を実施している。</li> <li>・失禁時、おむつ交換時等の対応は本人の羞恥心やプライバシーに配慮し他者に気づかれないように配慮している。</li> </ul>		
54 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入浴を拒否する利用者には声かけや対応等の工夫を行っている。</li> <li>・本人の入浴習慣、希望、体調にあわせ、入浴していただくようにしている。</li> <li>・羞恥心に配慮しながら適切に支援するよう努めている。</li> </ul>		
55 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じて家族や医療機関と相談しながら眠剤の服用等についての調整を行っている。</li> <li>・一人ひとりの睡眠パターンを把握している。</li> <li>・眠れない利用者については原因を見極め本来のリズムを取り戻せるよう、1日のリズムを整えるよう支援している。</li> </ul>		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>			
56 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひとり一人にあった役割や楽しみごとを促す働きかけを行っている。</li> <li>・利用者の生活歴や力量を把握している。</li> </ul>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・利用者及び家族等の希望に合わせ、本人管理、ホーム管理としている。 ・職員は利用者自身が金銭管理を行うことの重要性を理解している。		
58	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・身体状況に合わせ移動距離を配慮した支援を行っている。 ・天気のよい日は、散歩、買い物、畑や花壇へするなど気分転換を図っている。		
59	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・利用者から行きたい場所の希望が出されない場合は職員の働きかけにより、話して貰えるよう取り組んでいる。 ・ドライブは利用者の希望を取り入れている。		
60	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・実施している。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・家族が宿泊を希望した場合は寝具や食事の提供を行っている。 ・面会時間は設定しているが家族の都合に応じた柔軟な対応を行っている。 ・家族等の訪問時は声がけを行う等過ごしやすい雰囲気作りを行っている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
62	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束防止マニュアルに基づき拘束しないように心がけている。 ・運営者及び全職員は、身体拘束の内容やその弊害について理解している。 ・身体拘束は行わないという姿勢で日々のケアを提供している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・玄関に鍵をかけることの弊害は理解しているが事故防止のために自動ドアは内側から開かないようになっている。家族への説明と同意を得ている。		
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・居室内をのぞける窓を絵などを描きプライバシーに配慮しつつ見守り、安全に配慮している。 ・職員は利用者の所在の確認と様子を把握し、常に安全に注意しながら見守り、声がけを行っている。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・個別に対応できている。 ・利用者の手の届かない、かつ目につかない保管方法となっている。		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・利用者の状況に応じて想定される事故を職員間で検討している。ヒヤリ・ハット報告書、事故報告書の様式は整備され、事例は全職員に周知されている。 ・利用者の状況に合わせ居室に手すりを設置したり、床にテープを貼り足をきちんと運べるようにしたりして転倒防止の工夫をしている。		
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・急変時の連絡先を電話の近くに貼り、すぐ連絡できるようにしてあるが応急手当や初期対応の訓練は定期的には行っていない。 ・夜間の対応を含めて緊急時の対応マニュアルが作成されている。	○	・全職員が応急手当や救急救命の研修受講および定期的な訓練を受けられるように取り組んでいく。
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・職員と利用者が一緒に定期的避難訓練を行っている。	○	・災害発生時に備え備品を充実させる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	・起こり得るリスクを把握し、その対応策を家庭に説明し、敵宣見直しを行っている。 ・抑圧感のない暮らしを大切にしている。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
70	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・変化異変の兆候があった場合は記録すると共に全職員で共有し、対応に結びつけている。 ・午前と午後にバイタルチェックをし体調の管理をしている。異変発見時には看護師に報告、対応している。 ・一人ひとりの持病やアレルギーの有無を把握している。		
71	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・全職員が全利用者の薬の目的や副作用等を把握できるよう具体的な取組を行っている。 ・飲み忘れや誤薬等が無いように支援体制を整備している。		
72	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・排便の有無を毎日記録しており、下剤を使用する際は個々に合わせた使用量、頻度となっている。 ・朝食にヨーグルトを取り入れるなど工夫されている。 職員は便秘の原因や及ぼす影響を理解している。		
73	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・毎食後に口腔内の洗浄や入れ歯の手入れ等を行っている。 ・口腔ケアの必要性を全職員が理解している。 ・一人ひとりに合わせた対応をとっている。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・カロリーや栄養バランスに配慮した献立となっている。 ・食事の摂取量は毎回記録している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	・マニュアル作成し実施している。 ・感染症の予防、早期発見に努め、情報を職員、利用者、家族等に周知している。		
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・マニュアルを作成し実施している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・畑、花壇を作っている。 ・玄関前に鉢植えを置いている。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節を感じることができる物を飾ったりして工夫している。 ・テレビや音楽等の音量は適当である。 ・日差しや照明等、室内の明るさは適当である。	○	職員は騒がしい物音を立てたり、声を出さないようにする。
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・食卓の他畳スペース、こたつ、ソファがある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	・使い慣れた物を居室に持参してもらっている。		
81	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	・朝の掃除の時間の他、随時換気を行っている。 ・温湿度計を設置し、温湿度管理を行っている。 ・空気清浄機を設置している。 ・居室にエアコンを設置し、利用者に合わせた湿 度管理をしている。		
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	・要所に手すりを設置している。 ・車椅子を用意している。 ・身体状況の変化に応じ環境改善の工夫を行っ ている。		
83	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	・トイレの場所をわかりやすく表示している。 ・居室や浴室にのれんをかけ、色や柄で区別でき るようにしている。		
84	○建物の活用  建物を利用者が楽しんだり、活動できる ように活かしている	・庭に野菜、花を植え、利用者の体力に応じ草取 り、収穫等一緒に行っている。 ・庭にベンチを設置している。		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
95	職員は、生き活きと働いている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)